



境内で行われる護摩供（龍門神社）

## 第9章 活用

第1節 活用の方向性	142
第2節 活用の方法	142

## 第9章 活用

### 第1節 活用の方向性

本史跡は「山岳信仰の山としての価値」と「山岳および里山としての価値」を併せ持つことから、史跡見学以外にも登山、自然観察等の様々な目的をもった人々の入山や関わりが想定される。そこで史跡として適切な活用を検討し、史跡、登山、自然環境等の複合的な魅力をさまざまな切り口によって活用するための取り組みを推進する。

その際には関係者とよく協議し、山岳信仰の場を尊重した活用となるよう配慮する。加えて史跡宝満山は地域の人々に親しまれる山であるため、地域住民の主体的な参画を喚起し、史跡宝満山を核とした周辺地域の活性化へとつなげる。

既に史跡に多くの来訪者を迎えているため、活用事業の実施時期については両市で共同して柔軟に対応を図る。

### 第2節 活用の方法

#### 1. 情報発信の推進

- ・ 宝満山は史跡としてよりも登山の山としての認知度が格段に高いため、史跡であることの情報発信を推進する。
- ・ 史跡解説員の育成を行う。
- ・ 関係者共同での解説パンフレットや学習シートの作成・配布を行い、あわせてホームページでの閲覧等へも対応する。
- ・ 関係者で計画を作成して史跡の各所にサインを設置する。その際には、史跡が広大であり、整備計画策定まで時間を要することが想定されるため、現在すでに来訪者を迎えている場所等の優先順位を精査して、計画・実施する。
- ・ パンフレットやサインの内容は近年増えている訪日外国人向けの多言語(英語、中国語(簡体字・繁体字)、ハングル等)での解説も行い、QRコードなどを利用して、個人のスマートフォンなどにも表示できるデジタルでの配布も考慮する。
- ・ 史跡の山として宝満山を歩くルートガイドや解説を多言語で作成し、紙面だけでなく映像も用いてインターネット等を利用して公開する。
- ・ 史跡宝満山は山岳遺跡であり、入山中に滑落等の事故も懸念されることから、登山者や史跡見学者に対する注意喚起を行う。
- ・ 史跡としての啓発を行うことで史跡保全のマナーについても向上を図る。
- ・ 第8章で述べたとおり史跡宝満山の総合的な調査・研究を推進するため、その成果を踏まえた情報を展示やシンポジウムの開催等を通じて広く公開し、追加指定等があれば記念して事業を実施する。また、将来的には他の自治体にある同様の山岳信仰遺跡と連携した活用についても検討する。

## 2. 学校教育・社会教育との連携

- ・宝満山は地域の象徴的な山として、地域の保育現場や学校教育・社会教育の場において山に親しむ取り組みが行われている。このことから、就学前から児童生徒ならびに成人までそれぞれのニーズに応じたきめ細やかな学習参考資料や教材等を準備し、講座開催等を含め積極的に連携を図る。
- ・調査・研究の成果を公開する企画展示やシンポジウムの開催等も企画する。
- ・山岳および里山としての史跡宝満山の魅力を活かして、環境保全事業、観光事業や健康増進事業と連携した活用を行うことで、様々な年代の多様化した来訪者に史跡宝満山について親しんでもらう。
- ・具体的な取り組みとしては、史跡解説トレッキング、竜岩自然の家(筑紫野市)等と連携した山岳・里山としての宝満山を体験する自然観察会、また各種イベント(山岳・里山としての魅力を映した写真展、スケッチ大会、季節に応じたトレッキング等)が想定される。

## 3. 地域との連携

活用にあたっては、史跡宝満山において近世の山岳信仰を支えた歴史的背景を踏まえて地元地区との連携を図り、地域住民の主体的な参画を促し、地域活性化へ繋げることが期待される。活用の拠点はその活動の中核施設としての機能も設ける。

## 4. 多様な史跡との連携

筑紫野市側には古代山城の阿志岐山城跡、御笠地区遺跡、太宰府市側には大宰府跡をはじめとする古代大宰府関連史跡等の重要遺跡があり、これらの史跡とも連携した回遊性を考慮した活用を検討することで歴史の重層性をもつ地域の魅力を発信する。

## 5. 他市町村との連携

史跡宝満山と同様に山岳信仰の遺跡を有する市町村などと連携を図り、情報交換を行いながら保存活用を推進する。

## 6. 各地区の活用

各地区の活用については、将来作成する基本計画等で詳細な整理・立案を行うが、現在想定される部分をまとめる。

「a. 上宮地区」から「g. その他の山中地区」が所在する山内は山岳信仰の中心となる区域であるため、山岳信仰の場として尊重し、見学者の安全に配慮した範囲での見学ルートとサインを設置し、史跡の価値を伝える取り組みを行うことで、史跡を理解する場として活用していく。

「h. 下宮地区」は竈門神社への参拜者も近年増加傾向にあり、宝満山登山者の入り口となっているため、史跡宝満山で最も利用者が多い地区である。地権者と協議しながら史跡の魅力や見学に伴う安全面のサインを優先的に設置し、史跡への導入の場として効果的な情報発信につなげる。

また、既に行事やイベントが多く開催されているため、山岳信仰の場として尊重しながら、今後も多様な活用を推進していく。

「i .大門地区」については集落内にあり、重要な遺構の広がりが見込まれるため、今後の調査・研究の成果も踏まえて地域と共存するような活用の在り方を検討する。



図 9-1 山岳信仰の場を尊重した活用イメージ